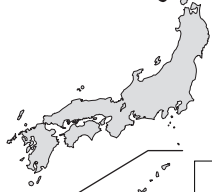


国土学事始め



大石久和

国土技術研究センター理事長

ながら、わが国の道路の沿道景観は、西欧諸国などと比べて決して美しいものとは言えないのが現状です。

路側に林立する看板を初め、沿道建築物の色彩や形状の統一感のないけばけばしい風景は、ドライバーや歩行者の精神状態に悪い影響を与えているのではないかと心配し

かげで暮らしてくることのできたわれわれは、緑の風景に接していると、安心感や落ち着きが出てくるように脳が設計されていると聞いたことが

あります。街路樹などの沿道林が成長していたり、遠景が緑豊かであることは、地球環境問題などと大げさな構え方をしなくても、安全に運転で

す。幸いにも、この国は、乾燥化に悩む国とは異なり、ほとんどの地域で自然に任せておくと草が生え、林や森に変わっていくのですから、美し

くなる素質に恵まれた国なのです。

江戸時代や明治時代に日本にやってきた外国人は口をそろえて、この国の手入れされた美しさを称賛していきまし

緑の道路景観で心豊かに

「景観法」というすっきり

とした名前の法律が制定され、わが国も本格的に景観の改善に乗り出すことになりました。景観とは、家の窓からの眺めなどいろいろな視点からの議論が可能ですが、都市景観、地域景観といった場合には、道路からの眺めの善しあ

しで評価されることが多いのではないかと思います。残念

山のお恵みや植物の実りのお

共通点があると書かれています。

きたり、楽しく自転車に乗りたり、気持ちよく歩いたりできる環境を提供している効果が大きいと考えます。

た。その国に生まれ育ったわれわれが、次の世代により緑豊かな美しい環境を残していかなければ、世代としての面目が立たないと考えます。

儲け主義を前面に押し出した看板に取り囲まれた醜悪で無秩序な姿から、心豊かにして

くれる緑に包まれた道路景観を育てていく努力を続けた

いものです。